

平成25年度 6人制ルールの取り扱いについて

『平成25年度 6人制ルールの取り扱い』について、3月23日の審判規則委員会合同会議において、FIVB ルールが改正された点及び平成24年度国内競技会の反省点から、以下の点について取り扱いを統一することを確認しました。

1 オーバーハンドパスのハンドリング基準に関する事項

規則9.2 ヒットの特徴

9.2.1 ボールは、身体の中の部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.2.3 ボールは、接触が同時であれば、身体のさまざまな部分に触れてもよい。

例外

9.2.3.1 ブロックでは、1つの動作中であれば、1人または2人以上のブロッカーが連続して接触してもよい。(規則14.2)

9.2.3.2 チームの最初のヒットでは、(規則9.2.4を除き)1つの動作中であれば、ボールは身体のさまざまな部分に連続して接触してもよい。(規則9.1, 14.4.1)

9.2.4 サービスのレシーブでは、指を使ったオーバーハンドの動作でダブルコンタクトやキャッチをした場合は反則となる。

(注)

- 1 指を使ったオーバーハンドでの、サービスのレシーブのハンドリング基準は、チームの2回目、3回目のヒット時のオーバーハンドパスと同じ基準である。
- 2 オーバーハンドの動作によるサービスのレシーブで、指を使っていない場合は、ダブルコンタクトの反則にはならない。しかし、従来同様、キャッチの反則になる場合はある。

2 リベロに関する事項

規則19.3.2 リベロリプレイスメント（入れ替え）

19.3.2.1 リベロリプレイスメントは、通常の選手交代には数えない。

その回数に制限はない。しかし、（ラリーが完了せずに、ペナルティにより、ポジション4にロテーションしなければならなくなったり、アクティグリベロがプレーできなくなったりした場合を除き）リベロリプレイスメントを2回行う場合は、新たなラリーが完了した後でなければ次のリプレイスメントはできない。

19.3.2.2 通常のリプレイスメントをする選手は、いずれのリベロとも入れ替わってコートに出入りすることができる。アクティグリベロが入れ替わることができるのは、もともと入れ替わっていた選手またはセカンドリベロのみである。

19.3.2.3 各セットの開始時には、リベロは副審によるスターティングラインアップの確認が終わり、スターティングプレーヤーとのリプレイスメントを許されるまでコートに入ることができない。

19.3.2.4 その他のリプレイスメントは、ボールがアウトオブプレーの状態、サービスのホイッスルの前でのみ行うことができる。

19.3.2.5 サービスのホイッスルの後であっても、サービスヒットの前であれば、リプレイスメントは拒否されない。しかし、これは許された手続きではなく、さらに再発した場合は、遅延行為に対する罰則が適用されることを、そのラリー終了後、ゲームキャプテンに伝える。

19.3.2.6 リプレイスメントの遅れが再発した場合は、プレーを直ちに止め、遅延行為に対する罰則を適用する。次にサービスを打つチームは、遅延行為に対する罰則の段階により決定される。

19.3.2.7 リベロとその入れ替わる選手は、リベロリプレイスメントゾーンを通じてのみコートに出入りできる。

19.3.2.8 リベロリプレイスメントは、リベロコントロールシートまたは（もしも使用しているなら）電子記録用紙に記録される。

（注）

- 1 ラリーが、ノーカウントになったときは、リベロのリプレイスメントはできない。
- 2 サービス許可のホイッスル前であれば、何度入れ替わっていても良い。（例えば、最初L1が入ったがL2の方が調子良かったので、L2に替わったなど）
- 3 サービス許可のホイッスル後、サービスが打たれる前にリプレイスメントした場合は、ラリー終了後、ゲームキャプテンに注意が与えられる。繰り返した場合は、プレーを直ちに止めて遅延の罰則が科せられる。この時のリベロの交代は認められない。ただし、この時、リベロがポジション4に残らなければいけなかったり、アクティグリベロがプレーをできなくなった場合は、ラリーが完了していなくてもリプレイスメントが許される。

19.3.2.9 不法なリベロリプレイメントは、(主に)以下の事例を含む。

- ・ リベロリプレイメントの間に完了したラリーがないとき。
- ・ セカンドリベロや入れ替わった選手以外と入れ替わったとき。

不法なリベロリプレイメントは、不法な選手交代と同様とみなされる。

不法なリベロリプレイメントが次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員により訂正され、チームには遅延行為に対する罰則が適用される。

不法なリベロリプレイメントがサービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置がされる。

(注)

- 1 不法なリベロリプレイメントが行われた時、アシスタントスコアラーは、サービスの許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にブザーを鳴らし、指摘しなければならない。そして、チームには遅延の罰則が与えられ、元のポジションに戻し、リベロリプレイメントは認められない。しかし、リベロがポジション4に残らなければいけない場合は、リベロリプレイメントは認められる。
- 2 不法なリベロリプレイメントの指摘が、サービスのヒット後になってしまった場合は、不法な選手交代として処置をする。この場合も、元のポジションに戻すが、ラリーが完了しているため、その後のリプレイメントについては認められる。

規則19.4 新しいリベロの再指名 (RE-DESIGNATION OF A NEW LIBERO)

19.4.1 リベロが負傷や病気、退場、失格でプレーをすることができなくなった場合：

監督または監督が不在の場合にはゲームキャプテンは、いかなる理由であってもリベロがプレーできなくなったことを宣言することができる。

19.4.2 リベロが1人のチーム

19.4.2.1 規則19.4.1によりリベロが1人しかいなくなった場合や、1人しか登録されていない場合では、そのリベロがプレーできなくなったと宣言されたときには、監督(監督不在の場合はゲームキャプテン)はその時点でコート上にいない他の選手(リベロと入れ替わった選手を除く)を、試合終了までリベロとして再指名することができる。

(注)

リベロ1人のチームで、リベロが失格や退場となった場合でも、そのチームは新しいリベロを再指名することができる。

19.4.2.2 もしもコート上でアクティブラベロがプレーできなくなった場合は、通常リプレイメントする選手と入れ替わるか、直ちに直接再指名したリベロと代わることができる。この場合、再指名の対象となった元のアクティブラベロは、その試合の残りはプレーすることはできない。

もしもプレーができなくなったと宣言した時にリベロがコート上にいない場合でも、再指名をすることができる。プレーできないと宣言されたリベロは、その試合の残りはプレーすることはできない。

- 19.4.2.3 監督または監督不在の場合にはゲームキャプテンは、副審に再指名について申し出る。
- 19.4.2.4 再指名されたリベロがプレーできなくなった場合には、さらにリベロを再指名することができる。
- 19.4.2.5 監督がチームキャプテンを新たなリベロとして再指名することを求めた場合は、この要求は認められるが、チームキャプテンはリーダーとしてのすべての権利を放棄しなければならない。
- 19.4.2.6 リベロの再指名があったときは、再指名された選手の番号を記録用紙の備考欄とリベロコントロールシート（または使用しているなら、電子記録用紙）に記録しなければならない。

(注)

1 リベロの再指名の方法は、次のとおりである。

- ①監督がブザーを押し、副審に、口頭で「リベロの再指名」を要求する（ハンドシグナルは示さない）。その時、リベロと再指名される選手は、リベロリプレイメントゾーンに、ナンバーパドルを使用する場合は、ナンバーパドルを持って準備をして立っていないなければならない。（再指名された選手はビブスを着るか、アクティグリベロと同じユニフォームを着る。しかし番号は自身と同じものを付ける。ビブスは各チームで準備する。）
- ◆リベロが、コート上にいるときでも、再指名することができる。
 - ◆交代が遅れたり、準備ができていない場合は、拒否され遅延の罰則が適用される。
- ②副審はホイッスルし、記録員にリベロの再指名の要求であることを口頭で伝える。この際ハンドシグナルは示さない。
- ③記録員は、再指名した選手が、リベロと交代した選手でないことをアシスタントスコアラーに確認し、片方の手を上げる。（リベロがコート上にいるときでもできる。）
- ④副審は、リベロの再指名を許可する。
- ⑤記録員は記録用紙の特記事項欄に、アシスタントスコアラーはリベロコントロールシートのコラムに、それぞれリベロの変更を記載する。

(記載例)

Aチームが第1セット13：14のときリベロの再指名の要求があった場合
(リベロNo. 14、再指名の選手No. 9)

<記録用紙> リベロの再指名/A/1(13：14)No. 14→No. 9

<リベロコントロールシート>リベロの再指名の記載欄に記載する。

- ⑦記録員は、アシスタントスコアラーの記載が完了していることを確認したら、両手を上げて副審に知らせる。副審は、主審に両手を上げて知らせる。

- 2 セット間にリベロの再指名をしたいとき、監督はリベロを再指名することを副審に伝える。副審は、スターティングメンバーの確認をした後、リベロの再指名の手続きを行う。
- 3 リベロとして再指名された選手は、試合を通じてリベロとして試合に出場する。プレーが続行できない（プレーの調子が悪い等）と宣言されたリベロは、再指名をした時点で、試合に戻ることはできない。
- 4 チームキャプテンがリベロとして再指名された場合は、以後は新たにチームキャプテンを指名する必要はない。試合中はゲームキャプテンがキャプテンの責務を担う。
- 5 試合終了後、リベロに再指名されたチームキャプテンが、記録用紙にサインをする。

19.4.3 リベロが2人のチーム

19.4.3.1 2人のリベロが記録用紙に記入されているチームは、そのうちの1人がプレーできなくなっても、リベロ1人で試合をすることができる。再指名は認められないが、もう1人のリベロも試合でプレーの続行ができなくなった場合は、この限りではない。

19.5 リベロの退場または失格(EXPULSION OR DISQUALIFICATION)

19.5.1 リベロが退場または失格となった場合は、直ちにセカンドリベロと入れ替わることができる。もしもチームに1人のリベロしかいない場合は、再指名することができる。

(注) 改訂版

【リベロが2人のチームの再指名】

リベロが2人のチーム場合、2人のリベロともがプレーできなくなったことを宣言した時点で、新しいリベロを再指名することができる。再指名した場合は、登録されていたリベロは、試合を通してリベロの権利を失う。

- 1 1人のリベロが退場になった場合、チームは1人のリベロで試合を続行できる。しかしそのリベロもプレーが続行できないと宣言された場合、新しいリベロを再指名できる。その時は、そのリベロは、試合を通してリベロの権利を失う。ただし、退場していたリベロは、次のセットからリベロとしてコートに戻ることができ、チームは次のセットから、2人のリベロで試合を行うことができる。
- 2 1人のリベロが退場になった場合、チームは1人のリベロで試合を続行できる。しかし、そのリベロも退場になった場合、退場した2人のうち1人のリベロに対して、新しいリベロを再指名することができる。その時は、そのリベロは、試合を通してリベロの権利を失う。ただし、もう1人の退場となったリベロは、次のセットからリベロとしてコートに戻ることができ、チームは2人のリベロで試合を行うことができる。
- 3 1人のリベロが失格になった場合、チームは1人のリベロで試合を続行できる。しかし、そのリベロもプレーが続行できないと宣言された場合、新しいリベロを再指名できる。その時は、2人のリベロは、試合を通してリベロの権利を失い、チームは再指名した1人のリベロで試合を行う。

3 不法な行為に関する事項

規則21.1 軽度の不法な行為 (MINOR MISCONDUCT)

軽度の不法な行為は、罰則の対象にはならない。主審には、チームが罰則レベルに達しないように防ぐ義務がある。

これは2段階で処置される。

ステージ1： ゲームキャプテンを通じて口頭での警告をする。

ステージ2： 該当する選手にイエローカードを使用して警告をする。この警告はそれ自体が制裁ではないが、その試合においてそのチームメンバーが（さらにチームが）次からは罰則になることを示している。これは記録用紙に記録されるが、直ちに罰則を受けることはない。

(注)

- 1 チームの1回目の軽度の不法な行為があった場合は、ステージ1として処置する。ステージ1の警告は、チームに対して行い、ゲームキャプテンを呼んで口頭で警告を行う。この警告は1度限りである。記録用紙には記載しない。
- 2 チームの2度目の軽度の不法な行為については、イエローカードを示し、記録用紙に記載される。主審は、軽度の不法な行為を行った選手を呼び、イエローカードを示し警告する。このイエローカードはチームに対して試合を通して1回だけである。したがって、その後同チームのどの選手でも、再度軽度の不法な行為を行った場合は、レッドカードを示し反則とする。

(例)

	ステージ1	⇒	ステージ2				
選手	No. 5		No. 6	⇒	NO. 7	⇒	NO. 8
処置	口頭でチームに警告		イエローカード		レッドカード		レッドカード

- 3 チームに先に反則・退場・失格の罰則を適用した後に、同じチームが軽度な不法な行為を行った場合は、口頭での警告は行わず、上記の「ステージ2」から始まり処置を行う。

(例)

	不法な行為	⇒	軽度な不法な行為1回目	⇒	軽度な不法な行為2回目	⇒	軽度な不法な行為3回目
選手	No. 5		No. 6	⇒	NO. 7	⇒	NO. 8
処置	レッドカード		イエローカード		レッドカード		レッドカード

4 試合中断に関する事項

規則17.1 負傷/病気 (INJURY/ILLNESS)

17.1.1 ボールがインプレー中で、もしも重大な事故が起きた場合には、審判員は直ちに試合を止め、医療担当者がコートに入ることを許可しなければならない。

ラリーはその後、やり直しとなる。

17.1.2 負傷や病気の選手に対し、正規にも例外的にも選手交代ができない場合は、その選手に3分間の回復のための時間が与えられるが、その試合中は同じ選手に対して繰り返しては与えられない。もしも選手が回復しない場合は、チームは不完全を宣告される。(規則6.4.3, 7.3.1)

(注)

ラリー中に選手が負傷し、ラリーが中断され、ノーカウントとなった場合、その選手の選手交代は認められるが、タイムアウトは認められない。

5 スクリーンに関する事項

規則12.5 スクリーン(SCREENING)

- 12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成し、サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。
- 12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サーバーおよびサービスボールのコースを隠すことでスクリーンが形成される。(第6図)

(注)

スクリーンの反則が成立するのは、サービングチームの選手の妨害によって、サービスをレシーブする選手が、サーバーおよびサービスボールの軌道を隠されて、見えなくなる時である。

6 副審の責務に関する事項

規則24.3 責務 (RESPONSIBILITIES)

- 24.3.1 それぞれのセット開始時や最終セットのコートチェンジ時に、必要に応じてコート上の選手の位置がラインアップシートどおりであるかをチェックする。
- 24.3.2 試合中、副審は次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。
- 24.3.2.1 相手コートおよびネット下方の空間へ侵入したとき。(規則11.2)
- 24.3.2.2 レシービングチームのポジションの反則のとき。(規則7.5)
- 24.3.2.3 主としてブロッカー側のタッチネットの反則と、選手が副審側のアンテナに触れたとき。(規則11.3.1)
- 24.3.2.4 バックプレーヤーがブロックの完了をしたときや、リベロがブロックの試みをしたとき。または、バックプレーヤーやリベロのアタックヒットの反則のとき。(規則13.3.3, 14.6.2, 14.6.6)
- 24.3.2.5 ボールが外部の物体に触れたとき。(規則8.4.2, 8.4.3)
- 24.3.2.6 ボールがフロアに触れて、主審がその接触を確認できないとき。(規則8.3)
- 24.3.2.7 相手コートに向かうボールの全体またはその一部が副審側の許容空間外側を通過したとき、あるいは副審側のアンテナにボールが触れたとき。(規則8.4.3, 8.4.4)
- 24.3.3 試合終了後、記録用紙をチェックし、サインする。

(注)

- 1 バックプレーヤーの判定を確実にできるような見方、位置取りをする。
- 2 副審は、ネット上部の白帯の部分でも、ブロッカーが触れた場合は、タッチネットの反則のホイッスルをする。

7 選手交代に関する事項

規則15.10 選手交代の手続き (SUBSTITUTION PROCEDURE)

- 15.10.1 選手交代は、選手交代ゾーン内で行わなければならない。(規則1.4.3)
- 15.10.2 選手交代は、記録用紙への記録と、選手のコートへの出入りを許可するために必要な時間より長くかかってはならない。
- 15.10.3a 選手交代の要求とは、中断の間に、プレーする準備のできた交代選手が選手交代ゾーンに入ることをいう。負傷による場合やセット開始前での選手交代を除いて、監督は選手交代のハンドシグナルを示す必要はない。
- 15.10.3b もしも選手が準備できていなければ、選手交代は認められず、チームは遅延行為により罰せられる。(規則16.2)
- 15.10.3c 選手交代の要求は、記録員のブザー、または副審のホイッスルにより通知される。副審が選手交代を許可する。
- FVB世界・公式大会では、選手交代を容易にするため、ナンバーパドルを使用する。
- 15.10.4 チームが2組以上の選手交代を同時にしようとするときは、同一の要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。この場合は、交代は1組ずつ連続して行われなければならない。もしも、そのうち1組が不法である場合には、正規の選手交代は許可されるが、不法な選手交代は拒否され遅延行為に対する罰則が適用される。

(注)

- ①交代選手が準備できていない場合は、その要求は拒否され遅延の罰則が適用される。
- ②複数の選手交代を要求したとき、1組の交代選手が遅れた場合、その交代は拒否される。
- ③複数の選手交代を要求したとき、組合せの中で不法な選手交代である場合と選手が準備できていない場合は、その交代は拒否され遅延の罰則が適用される。ただし、正しい交代や遅れていない交代は認められる。
- ④複数の選手交代については、1組目の記録が完了するまでは2組目はサイドライン上には立たせない。
- ⑤交代選手がサービスのホイッスル後にサブスティテューションゾーンに入った場合は、拒否をして不当な要求とする。
交代選手が、サービスのホイッスル後にサブスティテューションゾーンに入り、このとき副審がホイッスルしたり、記録員がブザーを鳴らした場合は、遅延の罰則が適用される。
- ⑥複数の選手交代のとき、パドルをベンチに取りにもどり再度選手交代を要求してきた場合は拒否され、遅延の罰則が適用される。

*ナンバーパドルおよびブザーを使用しないときの競技者交代の手順

- ①交代選手が、サブスティテューションゾーンに入ったら、副審がホイッスルし、ハンドシグナルを示す。主審もハンドシグナルを示す。
- ②副審は、ポールのそばで選手交代をコントロールする。
- ③副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止まらせる。
- ④副審は、コート内の交代する選手に手を挙げさせる。
- ⑤記録員は、交代できることを確認できれば、軽く手を挙げて合図を送る。交代できない場合は記録員が手を横に振る。
- ⑥副審は、記録員を確認し、手で合図をして選手を交代させる。
- ⑦記録員は記録用紙を記入して、完了したら両手を挙げる。
- ⑧複数の選手交代の場合は、1組ずつ③から⑦の手順を同様に行う。

規則7.3 スタートラインアップ(Team Starting Line-Up)

7.3.5 コート上の選手のポジションが、ラインアップシートと違う場合には、次のように対処する：

7.3.5.1 セットの開始前に違いを発見した場合は、選手のポジションはラインアップシートどおりに改めなければならない。この場合には制裁はない。

7.3.5.2 セット開始前、そのセットのラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、選手はラインアップシートどおりに変更されなければならない。この場合には制裁はない。

7.3.5.3 しかし、監督がそのようなラインアップシートに記入されていない選手をそのままコートでプレーさせたい場合には、監督は正規の選手交代を、該当するハンドシグナルを用いて要求する必要がある、記録用紙に選手交代が記録される。

もしもラインアップシートと選手のポジションの違いが、もっと遅い時点で発見された場合は、間違いのあったチームは、正しいポジションに戻さなければならない。相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いをした時点から発見されるまでに、間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

7.3.5.4 記録用紙の選手のリストに登録されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは、登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット（必要であれば0-25として）を失い、修正したラインアップシートを提出し、登録されていない選手がいたポジションに、登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

(注)

セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合

- 1 副審はラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、ラインアップシートどおりに変更するよう指示する。
- 2 監督がラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、両チームのラインアップを確認後、副審は正規の選手交代を認めなければならない。この場合、監督は選手交代のハンドシグナルを示し、正規の選手交代を要求する。
- 3 この際、ラインアップシートどおりに選手をコートに戻す。
- 4 副審は、ハンドシグナルを確認後、ホイッスルをし、要求を受け付け、正規の選手交代を行い、記録員に選手交代を記録させる。

8 試合の遅延に関する事項

規則 16.2 遅延行為に対する罰則(DELAY SANCTIONS)

16.2.1 “ディレイワーニング”と“ディレイペナルティ”はチームへの罰則である。

16.2.1.1 遅延行為に対する罰則は、試合終了まで有効である。

16.2.1.2 すべての遅延行為に対する罰則は、記録用紙に記入される。

16.2.2 チームメンバーによる試合での最初の遅延行為に対しては、“ディレイワーニング”の罰則が適用される。

16.2.3 同じチームによる 2 回目以降の遅延行為は、どのチームメンバーが引き起こしても、どのような種類のものであっても、ペナルティとなり “ディレイペナルティ” の罰則が適用される。そのチームは 1 点を失い、相手チームのサービスとなる。(規則 16.1.3)

16.2.4 セット開始前、またはセット間に適用された遅延行為に対する罰則は、直後のセットに適用する。

(注)

- 1 ディレイワーニングの罰則は、イエローカードを他方の手首に当てたハンドシグナルで示す。
- 2 ディレイペナルティの罰則は、レッドカードを他方の手首に当てたハンドシグナルで示す。

9 公式記録記入法

IV 試合後

4.5 記録員は“S”(選手交代)欄のそれぞれのセットに対応する枠内に、それぞれのチームが行った選手交代のすべての回数を記入する(いかなる例外的な選手交代も含む)。そして、“合計”枠内にすべてのセット中に、それぞれのチームが行った選手交代の総数を記入する。もし、チームが選手交代を行わなかった場合は、その欄に0を記入する。